

平成29年度 特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス 事業報告

事業所名	水分	歩行・活動	排泄	食事
特養 2階 ユニット1	必要水分量を摂取できていないご利用様が、3名前後はいらっしゃる。飲んで頂けるような声かけ・工夫が少なく、職員への意識づけが不足していた。毎月の水分量の振り返り・工夫などをミーティングで話し合うことで継続して水分量UPできるよう努める。	レクリエーション、外出は継続して行うことができている。全体でのレクリエーションを好まれない方には、個々に対応し、ほぼ全員のご利用者様に身体を動かす機会をつくることのできた。今後、歩行訓練も積極的に取り組めるよう対象の方を決め実施していく。	必要物品や誘導時間の見直しを行い、8割以上の方はトイレでの排泄が継続出来ている。気候や体調による排泄リズムの変化に合わせて今後も排泄をトイレで行って頂けるよう支援する。また、トイレ以外での排泄が見られる方の改善にも努めていく。	安全に食事が続けられるよう、全体での口腔体操・個々での口腔マッサージを継続出来た。また、美味しく食事して頂く為に、ご自分で好みのものを選んだり、ユニット内で食事を絡めたレクリエーションを行うことをご利用者様に喜んで頂けている。
特養 2階 ユニット2	各利用者様の好みの飲み物の種類や温度を職員が把握しており、かつ健康面(カロリーや糖分)を考慮して水分を提供出来た。しかしまだ水分量が1000ml/日に満たない利用者様が3名居り、今後も声掛けや提供時間を工夫し、水分量アップを目指す。	身体的な運動に加え嚙下訓練を取り入れた屋内レク、および、外食・買い物・花見・散歩などの外出レクを実施し、利用者様に喜んで頂けた。今後もレク活動を続けると共に、日常の中で短い時間でも身体を動かせる機会を提供していくよう努める。	排泄パターンを把握し職員間で情報共有することで、トイレ誘導回数を増やしパット内排泄や入浴時の排泄を減らすことが出来た。今後も継続してケアの向上に努める。	毎日のおやつ作りを継続でき、利用者様に喜んで頂けた。また季節感を感じて頂けるよう、花や装飾物も工夫した。今後も食事の時間が楽しくなる環境作りを検討し実施していく。
特養 3階 ユニット3	前日の水分摂取量を記入することで、全職員が水分量を意識しながら提供を行えた。認知症に伴い水分提供が困難な利用者様への声掛け改善やタイミングを計ることで徐々にではあるが水分アップに繋がった。今後は、水分提供表の作成と職員全員が統一したケアができるようになることで、日々の水分摂取量のムラの解消に努めたい。	散歩、外出等は季節に応じて行うことができた。個別に部屋へ外出時の写真の掲示は行えたが、フロア全体としては掲示物が少なく、特定の方の写真に偏りが見られるため、今後はフロア全体で写真や季節に応じた掲示を行い、職員、利用者様の意見を聞きながらユニットの特徴を出して行きたい。また、日々のレクリエーションの定着を図ることも今後の課題である。	排泄チェックシートの活用や職員の意見を反映させ、介護・看護職員の連携により下剤使用の見直しを行うことでパットへの便の付着(だらだらと出る便)の改善につなげることができた。その反面で、便秘状態が4日以上のご利用者様が多く今後も水分、食物繊維、乳製品を用いるなどし、薬に頼らない排便リズムをつかんで行くことが課題として残った。	全職員が日々の口腔ケアの継続を行うことができているが、統一したケアが行えているのか今後も密に職員間での情報共有が大切であると感じている。
特養 3階 ユニット4	ミキサーとフルーツを準備し、好きなフルーツを選んでいただくなどし、その場でミックスジュースを作り、飽きのこない飲み物の提供に取り組んだ。ご利用者様にも喜んで美味しく飲んでいただくことが出来た。今後は個々に合った水分提供を行い、工夫をこらした水分補給を行っていききたい。	散歩や簡単なお手伝いをしていただくなど、日常生活の中で活動量を増やす取り組みを行った。個別に実施した歩行訓練では、継続することで残存能力の保持に繋げることができた。個別レクとしての外出は定期的には行えず活動範囲を広げることができなかった。	排泄リズムと使用する排泄用具の見直しを状況に応じて話し合い、実践し、都度一覧化したことでスタッフ全員で周知し、個々に合った排泄ケアに取り組むことができた。今後の課題として、トイレ誘導出来ていない方についてトイレでの自然排泄に努めていく。	ご利用者様の声を大切に、好みに応じた食作りを行えた。季節と共に食す、を心掛け環境作りを実施し、ご利用者様に参加していただきながら食を通しての幸せな思い出を作ることができた。
特養 4階	水分提供表を元に、その方の好きな種類や温度、時間に水分摂取して頂き、個々の目標水分量の維持・達成が出来た。また、外出時やレクリエーションや入浴後、その時に飲みたい物を楽しんで選んでいただき、ご利用者様主体の水分ケアを実施できた。	本人様、御家族様への聞き取りを行い、その方に合った余暇の過ごし方について、スタッフ全員で検討できた。居室やベッド上で過ごされる方には、好きな音楽やラジオ等を聞いて頂いたり、好きなテレビ番組を見て頂く等、実施できた。しかし、他のフロアでのレクリエーションの参加はできたが、ユニット内での実施については、時間の確保が出来ず、継続できなかった。	ミーティングで個々の排泄用具や時間、下剤使用について定期的に振り返り、改善・ケアの統一が出来た。個々に必要な水分量摂取は出来ていたが、活動量が増加できず、パット内排泄がみられる方もおられるため、排泄ケアの見直しを再度行い、改善していく。	ご利用者様目線で、机の配置や空間作り等を行い、環境面の工夫や改善は行えた。しかし、月1回の昼食作り、おやつ作りは継続できず、ご利用者様主体の、楽しんで頂けるようなユニット炊飯の目標を、達成することが出来なかった。今後はご利用者様が参加でき、楽しんで頂けるようなおやつ作りの企画を行い、実施・支援をしていく。
ショート	担当者会等で生活環境、好みの飲み物、食べ物など家族様から情報を収集した。食後にドリップコーヒーを提供する事で、五感の刺激になり、徐々に水分量アップに繋がってきている。しかし、全員が必要水分量に達していない。水分提供表を元に水分量の少ない利用者様に対して声かけ、工夫をして水分アップを目指していききたい。	生活リハビリを取り入れた洗濯物干し、たたみ、シーツ掛けなど、利用者様が出来る事は提供できている。早朝の散歩、施設内の歩行、ラジオ体操など残存能力を活かした運動も行っているが、全員に実施できていない。季節に応じた製作活動は実施できている。今後は、外出レクを定期的に計画して活動範囲の拡張に努めたい。	排泄パターン、リズムを把握する事で、個々に合ったパットの使用はできている。定期的な声かけにて、トイレでの排泄は実施できている。排泄表の作成、頻尿の利用者様の対応・対策は、充分ではないため、今後は排泄表を活用し、情報共有する事で、排泄ケアの向上に取り組む。	厨房からのおやつ提供をユニットでのおやつ作りに変更できた。利用者様の食べたいおやつと一緒に参加して作って頂く事で、「食」に対しての意欲もまし、ほとんど完食されている。また、「食」を通じて季節も感じ、喜んで頂けた。個々の食事形態の把握・情報共有もできている。今後は、外食やおやつ外食も取り入れていききたい。
デイ	水分提供時間を職員が把握して声かけや提供をおこないほとんどの利用者様が目標水分量800ccを達成できた。また夏場の入浴後には目の前に冷たいペットボトルを用意し自己選択して飲める環境を工夫した。またフロア内にはいつでも飲めるようサーバーを用意した事で自由に飲んでいただけるようになった。今後は環境面の工夫をしていく。	日常生活動作を通して利用者様自身で出来る事への声かけや見守りを行えた。タオル干し、たたみ、食事の準備等で積極的に手伝ってくれる方が以前より増え役割作りを行えた。また室内レクリエーションや体操を増やしたことで全体的に活動量が増えた。おやつ散歩では歩行して近くの店まで買い物に行き自己選択して購入することで利用者様に好評だった。	パット内排尿される方、排泄頻度が多い利用者様の排泄パターンを排泄シートや情報共有することで一部把握することはできたものの尿意、便意の回復までには至っていない。トイレでの排泄を継続して頂けるように、肛門体操を取り入れることで尿漏れ等の改善を目指した。今後も排泄リズムを把握したトイレ誘導の徹底に努めたい。	食事前後の準備から利用者様に関わって頂けるように配膳だけでなくお茶くみ、台拭き等の声かけをし個々に合った役割作りを行えた。可能な限り食堂へ移動した食事でも、自分でご飯をついで頂いたり利用者様主体の食事を考えながら提供できた。